

**発行所**  
 札幌市北区北15条西7丁目  
 北大医学部同窓会  
 TEL&FAX (011) 706-5007  
 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
 https://hokudai-med-dousou.com

**編集人** 矢部 一郎  
**発行人** 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## CONTENTS

- (1) ・副会長再任のご挨拶……………佐久間一郎  
 ・副会長再任のご挨拶……………久住 一郎
- (2) ・ズームアップ⑩……………白土 博樹  
 ・第104期生代表ご挨拶……………金木 太生
- (3) ・令和4年4月1年次入学者名簿  
 ・令和4年4月2年次進級者名簿  
 ・令和4年4月2年次学士編入学者名簿  
 ・ズームアップ⑪……………南須原康行
- (4) ・ズームアップ⑫……………賀古 勇輝  
 ・新世紀の医学に向けて(48)……………福原 崇介
- (5) ・エルムの仲間達へ⑩……………木佐 健悟  
 ・特別寄稿「吉岡充弘先生(60期)を悼む」  
 ………………篠原 信雄
- (6) ・多趣味のすすめ……………宮澤 諒  
 ・医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第9回  
 アイスホッケー部……………松本 悠希  
 学友会スキー部……………森 雅敏
- ・「北海道大学大学院医学研究院・  
 (7) 大学院医学院・医学部医学科教育・  
 研究・国際交流基金」へのご寄附のお願い  
 ・告知板
- (8) ・令和4年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の  
 募集!! (再掲)  
 ・フラテ109号発行のお知らせ  
 ・百年記念館の利用について
- (9) ・事務局からお知らせ・新刊書紹介
- (10) ・北海道医学会からお知らせ  
 ・過年度会費が2年を超える会費未納者と  
 同窓会員名簿の発送について  
 ・【令和4年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い  
 ・会員名簿の処分にお困りの方へ  
 ・ご逝去者・一面の写真説明・編集後記

## 「大きなありがとうを込めて」

佐藤 謙太郎(100期 医学科5年)



### 副会長再任のご挨拶

さくま いちろう  
**佐久間 一郎**(55期)

この度、浅香正博会長のご推挙と評議員会のご賛同をいただき、学外よりの副会長として3度目の再任を仰せつかりました。医学部百年記念会館が開設されて3年目となりましたが、COVID-19によるコロナ禍の継続により、学内外で同窓会会員の皆様もご苦労されていることとお察し致しますこの時期に、北海道大学医学部同窓会の副会長の大役を予期せず再びお受けすることとなり、大変身の引き締まる思いでございます。

私が医学部在籍中であつた約20年前、浅香会長が委員長となられて「北海道大学病院研修医制度」が策定され、私は副委員長として研修医募集をお手伝いさせていただきました。しかし同制度開始以降、北大医学部卒業生の在籍先が不明となる事例が多くなり、同窓会費収入も一時減少致しておりました。しかし8年前に浅香会長の御英断により、医学部入学時から医学部生も同窓会員として入会するようになり、若い同窓会員が増えると共に、同窓会費収入も毎年安定するようになりました。また、若い同窓会員の研究発表や奨励賞の受賞、国内外種々の分野での活躍、同窓会新聞等への寄稿・参加等も増え、同窓会の活性化には目を見張るものがございます。

ここ数年はコロナ禍により、学会や研究会、会議等もWeb開催となっておりますが、最近ではon siteとのdual開催が増え、さらにon siteのみの開催となる学会も出て参りました。私事ですが、昨年、発熱外来対応等の過労により一時体調を崩し、自宅療養をして以降、働き方改革を率先しているような日常生活を送るようになりました。一度Web開催を経験してしまうと、勤務施設内での面会、市内での講演会出席や専門医資格更新のための道外出張、国外の学会に出席することもなくなり、すべて自宅からのWebで行えることから、その恩恵を大変感じているところです。

私は祖父が1期生、父が28期生であつたこともあり、医学部卒業時には祖父の同級生がご存命だつたことから、40年以上医学部同窓会をお手伝いして参りましたが、気が付けば祖父や父より長命となっております。ただ、私の同期の寶金清博北大総長が浅香会長のご支援を受け、北大の各種改革を遂行中でありまして、現況で医学部同窓会の事業等に、大変微力ではございますが、これからは何かしらお役に立てればと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 副会長再任のご挨拶

くすみ いちろう  
**久住 一郎**(60期)

この度、浅香正博会長のご推薦により、副会長の再任を仰せつかりました。微力ではありますが、今期も医学部と同窓会をつなぐ役割を全うする所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

コロナウイルス感染拡大は未だ終息には至らず、依然として学内の教育・臨床・研究や学生生活などに大きな影響を及ぼしています。しかし、徐々にではありますが、「正常化」の兆しも感じられます。対面授業や実習が一部制限を受けながらも再開され、北大祭も3年ぶりに実施されたことは明るい話題です。一方で、ウクライナでの戦争は、先行きの不安や物価高騰などの生活への影響を含めて、私たちに暗い影を落としています。出口の見えない閉塞感の中、大胆な発想転換を取り込んだ叡智の集積が望まれるところです。

先日、今年の医師国家試験の結果が発表され、北大の新卒者合格率は95.1%とほぼ全国平均の成績でした。教育システムの改革や教務委員会の継続的なサポートによって、全国ワースト10に入るような以前の状況からは脱却できましたが、既卒者の合格率の低さが課題として残ります。大きな壁として、卒業後の学生と意思疎通を図る手段に

乏しいことが挙げられます。現在、畠山医学研究院長を中心に執行部でさまざまな対策が検討されていますし、医学部WEBサイトには在校生や同窓生が気軽に利用できるコーナーも増設されました。こうした試みを通して、医学部卒業後も同窓生として活発な交流が図られる中で、今後、国家試験の既卒者合格率も上昇していくことが期待されます。

今一つの課題は、卒後臨床研修制度の研修医が北大病院で少ないことです。入局する専攻医は、ある程度確保されているとは言え、喫緊の課題であることから、卒後臨床研修センターと医学部が連携しながら、さまざまな対策が検討されています。新専門医制度は、日本専門医機構による基本領域共通のプラットフォームに統一されてきましたが、一方で医師の地域偏在や診療科偏在の是正に利用されている懸念もあり、多くの課題が山積しています。今後の専門医制度の動向を注視しつつ、医学部と病院が密接に連携しながら、北海道の医療を担う優秀な人材を育成していく必要があります。同窓会の皆様のさらなるご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## ズームアップ⑰ 日本学士院賞を受賞して

北海道大学医学研究院 教授 白土 博樹(57期)



このたび、第112回(令和4年)日本学士院賞を受賞しました。受賞理由は、「がんの動体追跡放射線治療・粒子線治療に関する医理工学研究」であります。呼吸などで動く肺や肝臓などのがんに対して、画像の動体追跡技術と加速器の同期照射を組み合わせることで、高精度な放射線治療・粒子線治療を可能にし、いずれも薬機承認を経て保険収載に導き、国内外の世界的な病院に国際展開できたことが評価されたようです。

北海道大学では、1934年に今 裕先生(受賞時の職名:医学部教授)が、「細胞の銀反応の研究」で受賞されて以来21名の方が受賞されております。その中には、雪の研究で著名な中谷宇吉郎先生(理学部教授)、北大ポータ部初代部長の堀内壽郎先生(理学部教授)、その後東大総長になった茅 誠司先生(理学部教授)、核酸研究者の大塚榮子先生(薬学部教授)、有機化学研究でその後ノーベル賞を取られた鈴木 章先生(名誉教授)、インフルエンザウイルス研究の喜田 宏先生(獣医学研究科教授)など著名な方が多く含まれております。北海道大学医学部同窓会では、私の知っている範囲では、糖鎖生物学研究で谷口直之先生(受賞時:理学研究所)が第101回(平成23年)に受賞されております。

本受賞は、言うまでもなく、多くの先輩たちの培った基盤の上で、共同研究者・教室員のご努力とその他多くの方々のご支援のおかげであり、その方々へまず心から感謝申し上げます。本賞は我国の学術上最高峰の歴史のある賞であり、私のような者が受賞することなどないと思っておりました。本学医学部・医学研究院では、今裕先生に続いて私が2人目のようで、こうなると、なんだかあり得ない気がして、私よりもずっと優れた研究をされていた多く

の同窓会の先生方や、志半ばで若くしてこの世を後にした方々に、申し訳ない気分になってしまいます。冷静に考えて、今回、私が受賞できたのは、「がん治療における放射線治療・粒子線治療」や「基礎から臨床への橋渡し研究」や「医学と理工学との連携」の重要性が高まったことがその背景にあり、そのような研究分野に身を置いてきたことが評価される時代に、たまたま私が居合わせたのであろうと思います。

あるいは、私の今回の受賞は、今後、北海道から、数々の学士院賞受賞者が生まれる予兆なのかもしれません。と、申しますのも、以前に比べて、オンライン上で優れた論文を読み、他の研究者とウェブ会議をすることができるようになり、どこに住んでいようが、どの施設に勤務していようが、環境が悪くて第一線の研究成果に触れることができない、共同研究ができない、ということは昔よりも明らかに減っています。そんな中、北海道は、人々の生活と自然との調和を保ちつつ、冬の極寒の吹雪の中で自然の厳しさと対峙することの重要性を忘れることなく、科学技術の発展を純粋に追及する志を保ちやすい環境にあると思います。動体追跡放射線治療・粒子線治療のアイデアも、治せない患者や当時の装置の限界を想いつつ、深夜の駐車場で自分の車の屋根の雪下ろしをしながら、寒い自宅の部屋の中で夜泣きする我が子をあやしめながら、あるいは自宅の風呂の中でふっと一息ついた時などに、私の所属した帯広厚生病院や北海道大学病院で苦しむ患者がいることが原動力であったわけで、そのような研修・

診療・研究開発の土台を有する北海道は、現在も、医療現場に役立つ独自のアイデアを育てるにはちょうどよい環境にあるのではないかと思います。

6月27日(月)に、日本学士院賞授賞式に出席してまいりました。荘厳かつ気品の漂う日本学士院会館にて、天皇皇后陛下ご臨席のもと、厳粛なうちにも華やいだ雰囲気、授賞式は執り行われました。授賞式のあとで、研究内容に関する短い発表ビデオを撮影し、同会館を後にしました。同発表ビデオは、天皇陛下が後でご覧になられるということでもあります。コロナ禍の影響で、残念ながら、例年行われていた宮

中茶会、文部科学大臣による晩餐会は中止されました。

他のところでも書いたことがありますが、私が大切にしてきた言葉は、「真理の追究と人々の平安」です。ぜひ、今回の私の受賞がきっかけとなり、私以外の北海道大学医学部同窓生が成し遂げてきた多くの成果や、北海道のすばらしさに多くの方が気づき、若い方々が、明日からも「真理の追究と人々の平安」を実現していってくれることを祈っております。



井村裕夫学術長から受賞する白土博樹教授

## 第104期生代表ご挨拶

かね き たい き 金木 太生(104期)



この度第104期生として誉れ高き北海道大学医学部に籍を置かせて頂くことになりました。代表の金木太生と申します。伝統ある北海道大学医学部同窓会に入会させて頂くことを心より嬉しく思います。

私は、4月より東京から単身で北海道に移住しました。自らを取り巻く環境が一変するという大きな不安を抱えていましたが、北海道が供与する豊かな

風土と、全国各地から集結した才能溢れる仲間達に出会ったことで、その不安は明日を照らす希望へと変わりました。

ところで、私の尊敬する偉人の名言に、次のようなものがあります。「俺か、俺以外か。」人間1人が生涯を通して成せることには上限はあるものの、後にそれが自分にしかできないオンリーワンのことであれば人はそれを後悔をし

ない人生であったと振り返れるのだと思います。私の目標は、医学知識を活かし、世界中の多くの人に幸せと豊かさを届けることの出来る組織を牽引する事です。

これからの6年間は、北海道大学医学部の名に恥じないよう、勉学を全うし、その他多方面で活躍することによって北海道大学医学部、そして北海道、更には日本を盛り上げていくことを誓いまして代表挨拶とさせていただきます。



令和4年4月 1年次入学者名簿(97名)

Table with 12 columns: 氏名, 出身校. Lists 97 students and their schools.

令和4年4月 2年次進級者名簿(5名) ※総合理系から移行

Table with 10 columns: 氏名, 出身校. Lists 5 students and their schools.

令和4年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

Table with 10 columns: 氏名, 出身校. Lists 5 students and their schools.

ズームアップ® 医師の働き方改革について: 前編 医師の過剰労働と医療安全

なすはら やすゆき 南須原 康行(64期)



北大病院副病院長 (医療安全担当)の南須原(64期)です。昨年度からは医員・教員等の働き方に関する検討WGのWG長を務めております。一般職に遅れて5年、2024年4月から施行される医師の働き方改革について、今回と次号に分けて現状などを紹介します。医師の働き方改革の主たる目的は長時間労働が常態化している日本の勤務医の健康確保ですが、医師の長時間労働を是正していくことが医療の質や安全の向上につながり、ひいては国民の健康維持に繋がるということも重要な目的です。

その中の3.8%が疲労による医療事故・インシデントの経験があり、83.1%が手術の質が低下することがあると回答しました(図1)。欧米では長時間労働や睡眠不足が医師のパフォーマンスや医療の安全性にもたらす影響についての研究が古くから行われており、前日に当直であった医師が執刀した手術後の患者において合併症が45%多かった、週当たり70時間以上働いている医師に医療ミスの報告が多い、24時間以上のシフトにおける医療過誤のリスクは睡眠不足が関連する、腹腔鏡シミュレーターを使った研究において睡眠を中断した群では操作時間が長くエラーの回数も多かったなどと報告されています。本邦からも、ひと月当たりのオンコール回数や不十分な休日が抑うつ・バーンアウトの有病率と関連するとの報告があります(Saijo Y et al. Int J Occup Med Environ Health.2014)。長時間労働と医療事故の関連がないとの報告もありますが、睡眠不足が判断力に影響を及ぼし(図2、医療機関勤務環境評価センター評価者養成講習テキスト基礎知識編から引用)、医師の長時間労働が医療事故の原因の一つであることは疑う余地はないと思われます(医療安全管理が専門の立場からは、ルールを守らない、コミュニケーション能力が低いなどの方が、より医療安全に悪影響を及ぼしていると思えます)。一方で、私を含めて古いタイプの医師は、労働時間が制限されることにより医師としての技術の習得を含めて成長に悪影響が出るのではと心配しているのではないのでしょうか。米国の研究で、勤務時間規制により、レジデントのバーンアウトの頻度が減少しウェルビーイングが向上したが、教育カンファレンスへの出席率低減、研修プログラムへの満足感や患者ケアについては好ましくない影響が出たとの報告があります。そのような懸念はありますが、安全な医療を提供するためには医師の労務管理が必要と考えます。次号では、2024年度から実施される医師の働き方改革の概要及びそれに向けた北大病院の取り組みについて紹介します。

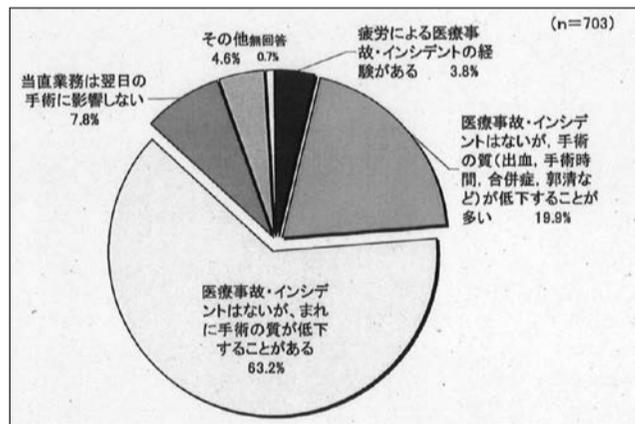


図1

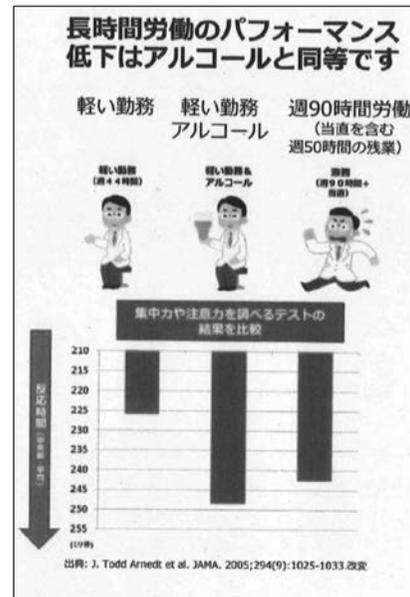


図2

# ズームアップ⑱ 北海道大学病院附属司法精神医療センターの開院にあたって

北海道大学病院附属司法精神医療センター センター長/准教授

賀古 勇輝(75期)



令和4年4月1日、北海道大学病院附属司法精神医療センターが北大病院の分院として札幌市東区東苗穂に開院いたしました。北海道で初めての医療観察法（心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律）の指定入院医療機関となります。平成17年に医療観察法が施行されて以来、北海道に指定入院医療機関が存在しない状況が長らく続いており、医療観察法病棟の設置は北大精神医学教室としても長年の悲願でした。平成30年に北大病院に設置されることが決定してから準備に邁進してきましたが、開院にあたり、重大な社会的使命を持った当センターを運営していくことに身が引き締まる思いです。

医療観察法は統合失調症などの精神障害により心神喪失等の状態で重大な他害行為（殺人、傷害、放火など）を行った対象者に対し適切な治療を行い、病状を改善させて再発を防止し、社会復帰を促進することを目的とした法律です。これまで北海道に指定入院医療機関がなかったため対象者は道外の指定入院医療機関に移送して治療しなけれ

ばならず、対象者や家族、道外の指定入院医療機関、支援者に大変な負担がかかっていました。この状況を一日も早く解消しなければならないと考えています。

当センターの病床数は23床（運用病床20床、予備病床3床）で全室個室となっており、病室以外では作業療法室や集団療法室、宿泊訓練室、屋外運動場、歯科診療室、理容室、ジムコーナー、体育館などがあります。病院食を作る厨房も設置されています。職員は常勤医師が3名、看護師30名、薬剤師1名、精神保健福祉士2名、作業療法士2名、心理士1名、事務員2名となっています。医療スタッフの数は医療観察法で定められており、医師や看護師数は一般的な精神科病棟の約6倍と手厚く配置されており、多職種チーム医療が重視されています。

当センターの目標として以下の5つを定めました。

1. 患者さんを大切にし、安心感を持ってもらえる病棟を目指します。
2. 多職種チームで患者さんを深く理解し、治療共同体を通して信頼関係を

築き、穏やかな生活を取り戻すための支援を行います。

3. 被害者・家族・社会それぞれの視点を忘れずに医療観察法に基づく医療を実践します。
4. 医療の透明性を保ち、地域精神医療・精神保健福祉と互いに高め合える連携を目指します。
5. 大学病院の医療観察法病棟として質の高い医療を開発・実践し、司法精神医療を担う人材を育てます。

医療観察法の対象者は重度の精神障害に罹患したことに加え、重大な他害行為を起こしたという事実を背負うこととなり、いわば二重のハンディキャップを負わされた方々です。自尊心や自己肯定感、自己効力感が損なわれた人が多いように思われ、このような対象者が安心して、人に対する信頼感を育んでいけるような病棟を目指したいと考えています。一方で、対象者には家族がいて、対象行為には被害者がいます。対象者の治療・ケアを第一に考えることはもちろんですが、被害者・家族・社会の視点を忘れずにいたいと思います。対象者に対する説明と理解

に努めるだけでなく、被害者や社会に対して説明のできる恥ずかしくない実践をして行かなければならないと考えています。

また、当センターは大学病院が運営する全国初の指定入院医療機関であり、人材育成や研究の推進という使命が課されています。医療観察法医療に留まらず、矯正精神医療との連携や精神鑑定の質の向上などにも力を入れ、司法精神医療の中核となれるよう取り組んでいきたいと考えております。

当センターの詳細につきましては、ホームページ ([https://www.huhp.hokudai.ac.jp/center\\_section/shihoseishin/](https://www.huhp.hokudai.ac.jp/center_section/shihoseishin/)) も是非ご参照いただけますと幸いです。



センター外観

## 新世紀の医学に向けて (48)

北海道大学大学院 医学研究院 病原微生物学教室

### 次々に出現するSARS-CoV-2変異株の素早い性状解析と論文発表

福原 崇介(会員2)



SARS-CoV-2の感染拡大に伴い様々な変異株が出現したが、その変異は増殖性や病原性、治療感受性に大きく影響することから、変異の意義を解明する研究は極めて重要である。東京大学の佐藤佳先生を中心として形成されたG2P-Japanコンソーシアムはその変異の意義を世界レベルの速度と精度で解明することを目指して立ち上げられ、筆者もその目的に強く同意し、2021年の春より正式に参画した。

2021年初頭にインドで急増した後に、デルタ株は世界中に広がった。我々はその性状を明らかにするために、コンソーシアム内で仕事を分担しながら最速で仕事をするを目指した。5月に着手し、in vitroをメインに6月中旬にプレプリントに初投稿を行い、7月にNatureに投稿し、数回のリバイスの後、11月に正式に受理された。実験に着手して初投稿までを2ヶ月以内で行えたのは、まさにコンソーシアムの強みが発揮できたと考えられる。デルタ株のスパイクタンパク質の細胞融合活性は、従来株や他の変異株に比べて顕著に高く、その活性は、スパイクタンパク質のP681R変異によって担われていることも同時に明らかにした。さらに、ハムスター感染モデルでは、デルタ株が、従来株に比べて病原性が高く、さらに人工合成したP681R変異を持つウイルスを感染させたところ、P681R変異の挿入によって、病原性が高まることが

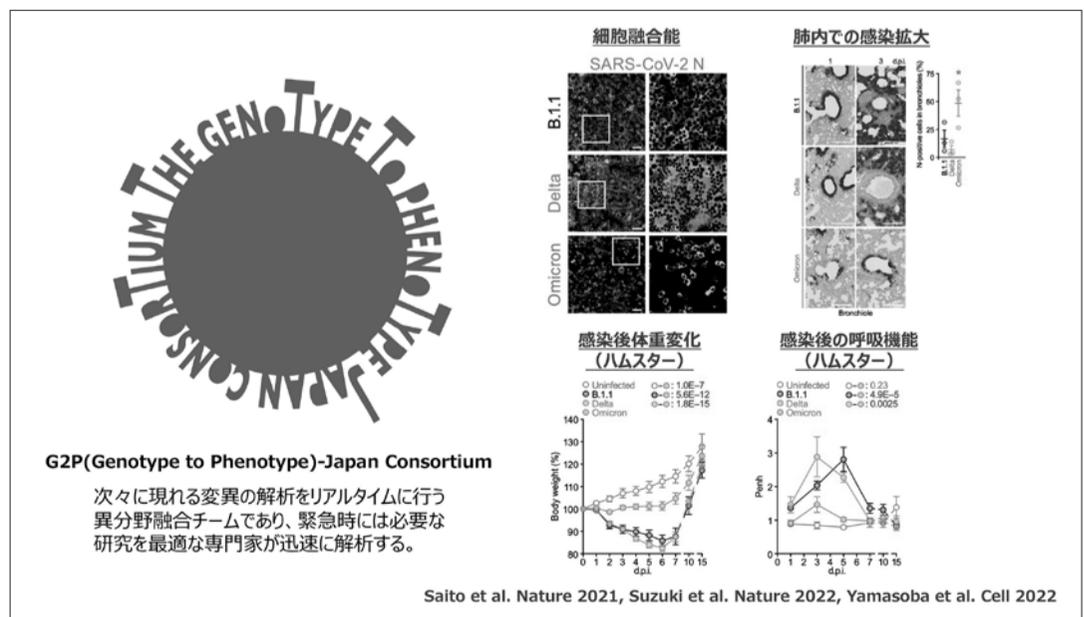
明らかになった。これらの結果から、デルタ株に含まれるP681R変異が高い細胞融合能を介して、病原性に関与していることが示唆された。

本邦ではデルタ株の猛威がワクチン接種によって落ち着きつつある中、11月下旬に南アフリカでオミクロン株が出現し、12月中旬には世界中に広がり、WHOもすぐにVOCに認定した。我々は12月上旬に臨床分離株を入手した。コンソーシアムメンバーで仕事を分担し、in vitroおよびin vivoでの解析を行い、12月下旬にはプレプリントの公開とNatureへの投稿を行い、2022年1月下旬に正式に受理された。デルタ株での経験が生き、より効率的に各研究者が仕

事を推進した結果と考えられる。数理モデリング解析により、オミクロン株のヒト集団内における増殖速度は、デルタ株に比べて2~5倍高いことを明らかにし、in vitroでオミクロン株のスパイクタンパク質の細胞融合活性は、従来株やデルタ株に比べて顕著に低いことを示した。In vivoでは従来株に比べてオミクロン株は病原性が低いことを明らかにした。これらの結果から、オミクロン株は感染性を上げ、病原性を下げる方向に進化したことが示唆された。2022年2月から開始したステルスオミクロン株の解析も4月にはCellに受理された。

重厚なデータをベースに極めて高い

新規性を持つ研究内容がTop Journalの最低条件だと考えられるが、今回のCOVID-19のように時事性が極めて高い場合は例外となることがわかった。重厚なデータよりもとにかくスピード感が重視されるのである。ただし、世界で多くの研究者が取り組む中で、最速でデータをまとめる必要があり、我々はG2P-Japanコンソーシアムという複数の研究室からなるチームを作り、世界に挑んだ。このようなコンソーシアムは世界的には多く作られており、専門性が増す現代の科学研究では有用性が極めて高いと思われる。



# エルムの仲間達へ⑪ これからの地域医療について

JA北海道厚生連  
 倶知安厚生病院 総合診療科  
 き さ けんご  
 木佐 健悟(80期)



私は2012年倶知安厚生病院総合診療科で勤務を始めました。北海道の後志二次医療圏のうち小樽を除いたエリアの基幹病院と一般に認知されている病院です。当科に医師を集めるために悩んだり、2年前から総合診療領域の大きな学会である日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部の支部長を担うようになり、今後の地域医療がどうなっていくかを日々考えることになりました。私の今考えている内容を紹介することで、皆様の参考になればと思います。

なお、「地域医療」という言葉については多様な定義、使われ方がありますが、ここでは都市部から離れた相対的に人口密度の低い地域とします。また、今回は同窓会新聞ですので医師の問題に限って述べます。

地域医療の問題の筆頭は、「医師が足りない」です。少数の個人の努力と犠牲に依存することを続けていては望ましくなく、地域で勤務を希望する医師が少ないということを前提にシステムを考える必要があります。ただ、都市部から距離のある医療機関に医師が集まらないというのは北海道に限らず日本全体、あるいは世界でも普遍的な問題です。そんな中、最近のトピックスとしては新専門医制度、ダイバーシ

ティ、医師の働き方改革、新型コロナウイルス感染症の勤務への影響が挙げられます。

北海道庁の北海道地域医師連携支援センターのウェブサイトには道内の勤務医や初期研修医を対象としたアンケート調査の結果が掲載されています。アンケート結果を総合すると、医師が地域で勤務するためには、**<1>**専門医の資格を取ったり、専門性を伸ばしていけるといった教育環境や自身が成長していける環境があるという点と、**<2>**家族の理解や子どもの教育の問題、休みを確保できるか、といった勤務環境を改善する点が必要であり、それが都市部と地域が同じであれば給与の多い地域を選ぶ人が増えそう、という解釈が可能です。

**<1>**に関しては新専門医制度の仕組みを理解する必要があります。2018年から新専門医制度が始まりました。従来の18領域に加え、総合診療という比較的小さい医療機関で勤務することを得意とする医師の受け皿が明確になりました。総合診療は地域だけでなく都市部でも必要とされているので双方で育てていく必要がありますが、医師が専門医の資格を取ったり維持したりするために、地域の医療機関が「教育が

できる」施設になる必要があります。地域にあった医師を育てるには地域で研修を提供する必要があります。指導体制や人件費の確保といったことを考えるとある程度の規模が必要となります。

**<2>**については、ダイバーシティ、医師の働き方改革が関わっています。今までは1人の医師が常勤で月曜から金曜まで、ところによっては週末の当直や当番も担当する、という働き方が前提ないしは暗黙の了解として存在していました。しかし、そういう働き方ができる医師はどんどん減っています。特に子育てをしながら共働きをしているとそのような働き方は困難です。いわゆるダイバーシティ（多様性）の推進ですが、週4日や週3日といった多様な勤務形態を用意することが勤務への障壁を減らすことにつながるでしょう。週3日～4日であれば都市部に生活の拠点を置きつつ赴任しやすくなります。

また、医師の働き方改革がどこまで行われるかは、例えば地域の病院の当直が勤務になるか宿日直になるかの解釈にもよってくるため、原稿執筆時点での予測は難しいですが、今まで以上に連続勤務を避け、当直も交代してあたるが必要になってきます。

勤務している地域で頼れる人がいな

い場合、仕事の時に子どもが体調不良になった場合に突然休める環境である必要があります。コロナの流行で、「体調不良の時は勤務を休む」という当たり前のことが徹底されるようになりました。急に休んでも業務が回るようにするためには、医師体制に余裕をもたせることが必要です。

これらのことは全て、地域でも医師の集約化が必要であることを意味します。専門性の高い医療の基幹病院への集約化に加え、プライマリ・ケアを担う小病院や診療所も集約化をすることで地域医療の拠点になる町と、無医村になる町に分かれるでしょう。時代の変化に柔軟に対応した医療機関に勤務する医療者が増えて、そこが生き残ると予想します。

これらの変化を円滑に進めるためにオンライン診療やITの仕組みを使ったサポート体制の充実を期待したいところですが、どこの地域でも気軽に使えるようになるには、もう少し技術の進歩を待つ必要があるようです。

医師が成長しやすい、働きやすい環境を整えることで、少しでも地域で勤務する医師が増えることを願っております。

## 特別寄稿「吉岡充弘先生(60期)を悼む」

しの ばら のぶ お  
 篠原 信雄(60期)



長きにわたり北大医学部神経薬理学教室を主宰し、医学研究院長も勤められた吉岡充弘先生が昨年9月7日に逝去されました。今回、没後1年を経て、吉岡充弘先生を偲んで、教養の担任であった吉田敏雄先生、そして同期の仲間から多くの追悼文が寄せられました。吉岡先生を悼む同期の思いを、1周忌を迎え特別寄稿いたします。

**大森一吉:** 吉岡先生が亡くなられて、早、8か月が過ぎました。学生時代、彼は全学のオーケストラに傾注し、フルートの首席奏者かつ楽団総務を務めるまでになりました。卒業後は研究と臨床と道は異なるも、連絡を取り合っていました。その中で同期の先陣を切って薬理学教授に就任、お祝いに行った時に当時の解剖学の教授に“最後はやっぱり人柄がものをいうんだね”と言われたと話していたことが忘れられません。その後医学研究院長まで登り詰め、同期の誇りと思っていました。その間の御苦労は相当なものだったと思われませんが、愚痴を聞かされたことはありませんでした。昨年、従妹（いとこ）さん

から彼が急逝したと連絡があり、亡くなる2週間前に電話でたわいのない会話をしたのが最後になってしまいました。吉岡先生の残した足跡は北海道大学医学部の歴史に深く刻まれるものと思います。

**稲富 徹:** 衷心よりお悔やみ申し上げます。

**小田川 泰久:** 真摯な探究心と周囲への気配りや穏やかな姿は今でも忘れられません。笑顔がとても素敵でした。

**北川(旧姓)山貫) まゆみ:** 若くして教授になり、たくさん苦勞もしたはずなのに、北大医学部に最後まで尽くされたことを、同期として、誇りに思い、尊敬しています。北大で、機能神経外科ができるようになってくれてありがとう。あなたがいなければ、無理でした。

**久住一郎:** 医学部の廊下の向こう側から、先生がこやかに手を挙げながら近づいてくる姿が今でも時々、目に浮かびます。使命感と責任感だけで病の進行を止めていたとしか思えない先生が、医学研究院長を見事に全うした遺志は永遠にわれわれの心に残ります。

**小松知己:** いまだに、吉岡さんが『あ、ちょっと出かけていたんだよ』って戻ってくれそうな気がしています。吉岡さんが中心になり作ってくれた国試対策グループのおかげで、落ちこぼれのコマツは医師になれました。

**斎藤 有:** 同期会で先生のフルート、

北川先生、小生のバイオリンで合奏させていただいたこと懐かしく思い出しています。

**笹本洋一:** 吉岡先生には、北海道医学大会など、北海道医師会の諸事業に多大な貢献をしていただきました。医学部の新年会二次会で、久住先生と3人でワインを飲んだことが強烈な印象となっています。その数日後に手術の予定と言いながらも、「ワインは飲んで大丈夫、人生観も変わり新車を購入した」とおっしゃっていました。

**高橋国広:** 医学部長就任祝賀会で、「将来叙勲を受ける身なので、必ず長生きして下さい。そしてどんなに酔っ払っていても外で立ち小便はしないで下さい。」と激励したのに、こんなに早く逝ってしまうなんて誠に残念です。

**松崎 登:** 吉岡先生お元気ですか？ 志半ばで旅立ったのは何とも心残りでしたでしょうね。でもまだこっちは120名近くの不肖な仲間がいます。この仲間が立ち止まらないように天界から叱咤激励するという大仕事がありますよ。不肖な仲間たちも一生懸命がんばります。皆がそっちに行くまでよろしくね。

**山本有平:** 突然の訃報に言葉を失いました。吉岡先生とは、医学生時代は同じBSTグループで一緒に過ごし、卒業後は同期から母校の基礎系教授第1号となった彼に続いて、私が臨床系教授となり、教授会や木曜会では、いつも

大変お世話になり、感謝の念に絶えませんでした。その後、初代医学研究院長・医学院長に就任され、医学部創立100周年事業に懸けた彼の熱意は素晴らしく、心より敬服の至でした。この大事業に全てを燃焼させてしまったのか、この出来事は受け入れ難いものです。

**依田明治:** 君が「おし鳥」で呑んでいる姿を思い出します。

その他、大村 卓味、倉内 宣明、田島 康敬、船越 陽一、三澤 一仁、諸氏より昨年ご逝去の折にお悔やみの言葉をいただいております。最後に、教養時代のクラス担任であった吉田敏雄先生から寄せられた一文を掲載します。

**吉田敏雄:** 昨年9月、熱い最中、吉岡先生が急逝されたとの訃報が入った。余りに突然のことで信じられませんでした。北大現職で若くして天に召された貴君に、今もって悔やまれます。貴君は大学院医学研究院長、医学部長として大活躍され、医学部創立100周年記念の大事業も立派に成し遂げられました。その事業の中で「医学部百年記念館」の建設は立派に完成しましたが、もう一つの事業である「医学部教育研究基金」の設立は道半ばでした。きっと貴君のことですから、天国でもその捻出に奔走していることでしょう。貴君との思い出は尽きません。心からご冥福を祈ります。

# 多趣味のすすめ

みやざわ りょう  
宮澤 諒 (医学科4年 第101期)



医学科101期の宮澤諒と申します。分子病理学教室主催の勉強会での自己紹介をきっかけに私の趣味に関するよしなしごとを書き連ねる機会を頂きました。本文は大したことないですが、先述の勉強会はすごいのでこれを読んだ学生の皆さん、ぜひ行ってみてください。

さて、もともと私は自己紹介が苦手な、名乗ったら後が続きませんでした。趣味やこれといった特技がないので話す事が無かったのです。そこで、資格でも取って特技を作ろうと思立ちました。これが私の趣味：「資格取得」のきっかけなのですが、受験資格が緩く短期でサクッと取れる資格を探してほんの少し広くそしてとんでもなく浅く勉強するうちに一見、多趣味な人間ができてきました。

ただ本人からすると趣味は「資格取得」自体であって取った後のことは考えていません。取った資格を活かすと言うよりは、実は資格は取る前を楽しんだりします。講習が楽しかったり、あとは共感されそうにないのですが、試験問題のクレイジーな選択肢を見るのが好きです。例えば、「燃料タンクの錆を防止するために空の時は水で満たしておく。」とか、「酸が目に入ったら

アルカリで洗う。」センター試験や大学入試共通試験、CBT、医師国家試験にもこんな結構ありますよね？

そうは言っても、なんだかんだ役に立っている資格もあるので少しだけ紹介してみます。

## 札幌市ふぐ処理責任者

漢字検定のような人気資格以外で最初にとったのがこの資格です。「ふぐを捌けます。」って言うの大抵覚えてもらえるので重宝しています。「フグなんてスーパーに売ってないし捌く機会はないから資格自体は役に立たない。」と思いつつ取った資格でしたが、近年、温暖化の影響で北海道でも美味しいフグが釣れやすくなり、意外と得た知識・技術そのものが役に立っています。

取得に必要な実技講習を受ける際、持ち物に「白衣」とあったので普段着ている白衣(左)を持っていったのですが、料理の世界では板前さんが着ている白い服(右)のことを「白衣」と呼ぶらしく、他の人たちが調理している中で私だけは調理というより「解剖」といった感じで周囲から浮いてしまいとても恥ずかしい思いをしました。講習自体は捌き方だけでなく、フグの種

類の鑑別や先生がさばいたフグの試食などもあり楽しかったです。

Fig



話題作りのため、なんて不純な動機で資格を取っているとバチが当たったこともあります。

医学科の入試の時、面接試験前日に書くインタビューシートの資格・特技欄を空欄にするのは寂しいけれど何年も前にとった英検など書いても仕方がないと思い、とったばかりの「札幌市フグ処理責任者」を書いておきました。すると面接試験本番で「この資格はどうしてとったのですか？」と聞かれ言葉に詰まりました。確かに当初の思惑通り初対面の人との話題になってくれましたが、こんなところで発動しても困ります。入試本番で人並みに緊張しているのに「なんとなく面白いかな?」って思いました。なんて言えません。そんなことより「理想の医師像」みたいなありきたりなことを訊いてくれよと思いました。あの時面接官をして下さった先生、見ていらっしゃいますか？あの時のやりとりは面接試験に何か役に

に立ったのでしょうか???

## 小型船舶操縦士

実は私、20歳になる直前まで自転車すら乗れなかったのですが21歳で車の免許を取った勢いでその一ヶ月後には船も運転できるようになりました。我ながらすごい成長速度だと思います。

道路と違って海の上の運転は自由で楽しいです。信号待ちはありません。“巻き込み確認”もしないし、縦列駐車ができなくてもいいのです。何より風を切り、しぶきを上げて進む開放感が素晴らしいですが、波風を考慮しながら進路や速度を決めていく奥深さも楽しみの一つです。私の持っている免許の中で唯一、みんな取れば良いと思っています。自動車学校でフラストレーションが溜まった経験のある人、街中の渋滞に日々イライラしている人に特におすすめです。

ここまで比較的役に立っている順に二つ書いたものの、私の話を聞いて「俺も資格とるぞ!」ってなる人は多分いないでしょう。今まで1人しか見たことありません。でもこれを読んでいる方々はきっと小さい頃から“テスト”という点取りゲームが好きまたは得意だったはずで、資格習得に向いてると思うのです。北大医学部が変な特技集団になったら面白いかな?なんてことを考えながら私は医師免許という資格の勉強に戻ろうかと思えます。

# 医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第9回

## アイスホッケー部

医学科4年(第101期)  
代表 松本 悠希

北大医学部歯学部アイスホッケー部は1971年に設立され、創部50年を超える歴史と伝統ある部活です。部員は現役プレイヤー 18名(医学部17名歯学部1名)、マネージャー 17名が在籍しております。活動は週3回で、市内2箇所のスケートリンクで行う氷上練習、北大構内でランニングや筋トレを行う陸上練習、土日を活用したスケートの自主練習などに部員一同懸命に取り組んでおります。

部員のほぼ全員が最初は初心者状態で入部をします。にもかかわらず入部した部員のほとんどが数ヶ月後には

アイスホッケーにのめり込み、日々アイスホッケーに向き合うようになります。これは競技自体の面白さも勿論のことながら、コーチやOBの先生方の丁寧で熱意のあるご指導のおかげで日々上達を実感するからであると思います。現役部員同士のみならず、他の大学やチーム、そして何よりOBの先生方との繋がりを強く感じる事、これが当部の良さであり、強みであります。

一昨年に続き、昨年度もコロナ禍の影響で大会が全て中止となってしまいました。練習する機会も満足に取れず、モチベーションの維持が難しい時期が

長く続きました。しかし、そんな苦しい状況下でも、zoomを繋げて筋トレを行ったり、過去の試合の動画を分析し話し合うなど、部員全員がめげることなくその時出来ることを探し、活動を続けて参りました。

今年は昨年中止した大会も開催する

予定だそうです。新たな部員も7名加わり、2年間の我慢の時期を経て、部員同士の絆もさらに深まりました。一層団結力を高め、東医体や全医体の勝利を目指し日々の練習に精進して参りますので、OBの先生方には今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



## 学友会スキー部

医学科5年(第100期)  
主将 森 雅敏

北大医学部学友会スキー部は1962年創立の競技スキーの部活動で、現在男子27名女子9名が所属しています。アルペン部門とクロスカントリー部門に分かれて活動しており、東日本医科学学生総合体育大会(以下、東医体)での優勝を目標に日々練習を行っています。

具体的な活動としては、シーズンオフの時期は基本的に火・木・土の週3回+α、ランニングや筋トレなどの体づくりから雪上での滑りを意識したイメージトレーニング、そしてストレッチまで徹底して行います。シーズン中は週3回の練習に加え、コーチにご指導いた

だきながら自主練・合宿を行うことで、スキーの技術そのものの向上を図ります。現部員は全員競技スキー未経験者からのスタートですが、多くの先輩は大学からの競技デビューでも経験者に負けないほど上達されており、その経験と技術を確実に伝承していくことで、入部時にスキーそのものやスキー競技が未経験であっても十分に楽しみながら確実に上達できるような体制になっています。

当部活は2018年度第61回大会まではOB、OGの先生方のご活躍により、東医体15連覇という輝かしい成績を誇ります。しかし、新型コロナウイルス感染症により、冬季東医体は3度中止になってしまいました。本年度、大会が開催されれば、現部員の中で東医体経験者は5年生のみであり、緊張と不安を抱えながらの久しぶりの大会となります。部員各人が己の実力を十分に発揮できるよう、今できることを確実に、

来るべきシーズンに向け研鑽を積んでいます。

2022年度の東医体は旭川医科大学が主幹校のため、アルペンはカムイスキーリンクス、クロスカントリーは富沢クロスカントリースキーコースで開催される予定です。北海道での開催になるため、OB、OGの先生方をはじめ、近隣の同窓会員の皆様にも是非、応援をいただけましたら幸いです。

最後になりますが、日頃より大変お

世話になっております当部顧問 平野 聡先生、OB、OGの先生方からの多大なるご支援に心より御礼申し上げます。今年度は“Try&Enjoy”をスローガンに、制約の厳しいコロナ禍を経験して一回り成長した新しいスキー部として、先生方のご期待に添えますよう、部員一同、精一杯頑張る所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



## 「北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科教育・研究・国際交流基金」へのご寄附のお願い

本年4月、医学部創立100周年記念事業のもう一つの記念事業として、大学院医学研究院、大学院医学院及び医学部医学科における教育・研究・国際交流の推進を目的とし、「北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科教育・研究・国際交流基金」を

設立いたしました。北海道大学医学部では、医学教育、学術研究や研修の充実のため、企業や個人の皆様から広く寄附金を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。

本基金は、北大フロンティア基金等

のうち、医学研究院・医学部に対するご寄附に、医学部創立100周年記念事業基金の残額と医学部医学科国際交流基金の残額を加えたものをもって構成しております。

つきましては、北大フロンティア基金のうち「使途を医学部に特定した寄

附」についてお願い申し上げます。

皆様には、北大フロンティア基金の趣旨を是非ご理解いただき、医学部の運営をはじめ教育研究の充実発展のために、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ご寄附の方法

#### ◆Webフォームからお申込みの場合

1. 北大フロンティア基金Webサイト (<https://www.hokudai.ac.jp/fund/>) へアクセスのうえ、上部「寄附する」ボタンより寄附申込画面へお進みください。
2. 寄附目的について、「学部等支援」をお選びください。
3. 「学部等支援」をお選びいただきますと、「学部等支援の場合、支援先を選択してください。」と表示されますので、「医学部 (医学科)」をお選びください。
4. クレジットカード、コンビニ (払込票)、郵便振替・銀行振込のいずれかをご選択のうえ、お申込みおよびご決済ください。



#### ◆資料をご希望の場合

下記担当 (北大フロンティア基金室) へお問い合わせください。  
折り返し、リーフレット「北大フロンティア基金のご案内とご協力をお願い」が送られてきますので、そちらをご確認のうえ、お手続きください。  
また、北大フロンティア基金室もしくはインフォメーションセンターエルクの森にてお受け取りも可能です。

ご寄附に関しましてご不明な点等ございましたら、担当 (北海道大学事務局 北大フロンティア基金室) 宛にお問い合わせください。

TEL : 011-706-2017 / FAX : 011-706-2010 / E-mail : kikin@jimuhokudai.ac.jp

## 告知板

### <教授就任挨拶>



藤田医科大学医学部先端ロボット・内視鏡手術学講座教授

ひだ やすひろ  
樋田 泰浩(67期)

2022年9月1日付けで藤田医科大学医学部先端ロボット・内視鏡手術学講座教授を拝命いたしました。1991年に北大を卒業し、横須賀米海軍病院インターン修了後に北海道大学第二外科に入局、ハーバード大学で血管新生の研究を経て、2005年より北海道大学病院で呼吸器外科の臨床・研究・教育に従事して参りました。藤田医科大学ではロボット手術の研究開発、呼吸器外科の臨床、臓器横断的な臨床研究に携わる予定です。医師主導治験P-Land試験 (JRCT2011180004) など北海道大学で行って来た研究は継続して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

### <学内・院内人事異動>

#### <採用>

- |           |            |                          |
|-----------|------------|--------------------------|
| 2022年6月1日 | 川久保和道(77期) | 光学医療診療部 助教               |
|           | 大西 貴士(82期) | 整形外科教室 特任助教              |
|           | 内野 晴登(84期) | 脳卒中・循環器病ICT医療連携研究部門 特任助教 |
| 2022年7月1日 | 村上 壮一(72期) | 先端医療技術教育研究開発センター 助教      |
|           | 長津 明久(81期) | 消化器外科学教室 I 特任助教          |
|           | 原田太以佑(84期) | 画像診断学教室 助教               |
| 2022年8月1日 | 大野 正芳(83期) | 消化器内科 特任助教               |
|           | 高島 翔太(88期) | 皮膚科学教室 助教                |
|           | 古田 恵(会員2)  | 呼吸器内科学教室 助教              |
|           | 向野 雅彦(会員2) | リハビリテーション科 教授            |
| 10月1日     | 北井 秀典(84期) | 呼吸器内科学教室 助教              |

#### <所属換>

- |           |            |                     |
|-----------|------------|---------------------|
| 2022年7月1日 | 加藤 達哉(73期) | 呼吸器外科 教授(循環器・呼吸器外科) |
|-----------|------------|---------------------|

# 令和4年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!(再掲)

## 《フラテ賞》

- ・令和4年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに78名の方々が受賞しています。
- ・第20回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

## 《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

## 《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格 令和4年度末(令和5年3月

31日) 現在、40歳未満である本会員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。

- ①北大学医学部医学科を卒業した者
- ②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者(応募する年度末までに修了見込みの者を含む)で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者

・募集期間 令和4年10月1日から10月31日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

## 《応募書類等》

- ・応募書類(申請書、推薦書、業績別刷)の提出部数は6部(コピー可)とします。応募書類は一切返却しません。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書し、郵送または持参すること。
- ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
- ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
- ③郵送(持参)先  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部内  
北海道大学医学部同窓会事務局
- ・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学

部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。



## 《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、令和5年2月に開催する同窓会総会でを行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。  
電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## フラテ109号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも校友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「フラテ108号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、来年3月発行予定の「フラテ109号」の発行準備を進めております。本号では、渥美達也先生の北海道大学病院院長就任インタビューの掲載や、卒業間もない若手医師の先生方へのインタビューなどを予定しております。COVID-19感染拡大の中で我々も活動が制限されておりますが、オンライン化が進んだ今だからこそ出来ることを探しました。100号以上続く学友

会誌として、これまで通り先生方のご活躍をお届けしながら、新しい時代へ変化していく様子を後世に伝えられたいと思います。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、本号もほっと一息ついていただける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較的若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持っていただけた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購読下されば幸甚です。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙またはQRコードからお支払いをお願い致します。電話でのお申し込みは受け付けておりません。ご了承ください。すでに108号巻末の用紙で申し込

れた方は今回申し込む必要はございません。



## 109号の主な内容(予定)

- ・渥美先生北大病院院長就任記念インタビュー
- ・若手医師へのインタビュー
- ・教室だより、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ(医療界で活躍する女性へのインタビュー)
- ・茶苑

## フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿いただけます。多くの学生が

読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。

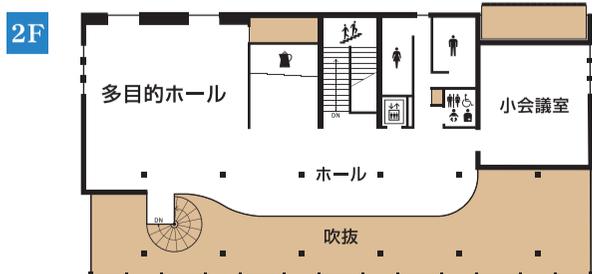
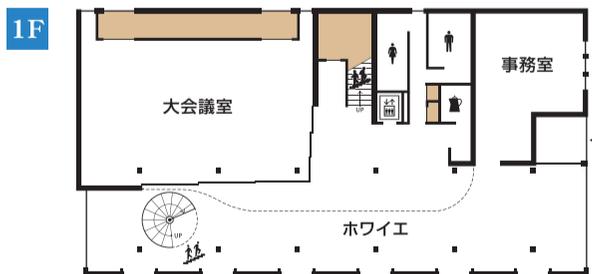
様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

- 内容・形式・字数：自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)
- 〆切：2022年11月30日

フラテ編集部  
E-mail: frate.med@gmail.com  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部内

## 百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は下記問合せ先までご連絡願います。



### 1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエの間は大きな引戸になっており、開放してより大きな空間として利用することができます。

- 【設備】椅子/会議用机/電動スクリーン/液晶プロジェクター(固定)/ワイヤレスマイク

### 2F 多目的ホール

[収容人数：48名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子48脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

- 【設備】椅子/電動スクリーン/液晶プロジェクター(固定)/ワイヤレスマイク

### 2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行えます。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

- 【設備】椅子/会議用机

## お問い合わせ先

北海道大学医学部事務局総務課庶務担当  
TEL: 011-706-5004 FAX: 011-717-5286 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp  
【受付時間】月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く)午前10時15分から午後5時まで

# 事務局からお知らせ

## 同窓会費について

### ○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込  
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

### ○会費未納者と刊行物の送付

・過年度分未納会費が2年を超える会

員には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

### ○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した

会員の会費は、翌年度から免除となります。

・42期生は令和4年度から、43期生は令和5年度の会費から免除となりますが、免除前に過年度分2年を超える未納会費があると、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。

本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。

なお、**年度途中でも加入出来ます**ので、同窓会事務局あるいは取扱代理店に直接お問い合わせください。

〈同窓会事務局〉  
電話：011-706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
〈取扱代理店〉  
株式会社第一成和事務所  
〒103-8214 東京都中央区日本橋

久松町11-6 日本橋TSビル8F  
フリーダイヤル：0120-100-492

E-mail: koumu@d-seiwa.co.jp



## 新刊書紹介



### 「免疫学者のパリ心景」 新しい「知のエティック」を求めて

やくら ひでたか  
矢倉 英隆(48期)  
医歯薬出版 ¥3,960

本書は純粋に医学書ではない。むしろ哲学書である。しかし、科学と哲学の創造的関係を認識することは医学認識に極めて重要と考えられるので本書を紹介する。

著者は72年に卒業と同時に博士課程に進み爾来、ボストンとニューヨークでの研究生活、帰国後、大学や研究所において基礎免疫学に100%の情熱を注ぐ。科学が「絶対的真理」に通じると確信していた。しかし、科学では暫定的な真理にしか到達しえないことに目覚める。『哲学への回心』を経験しつつ本格的にフランスで哲学という途方も

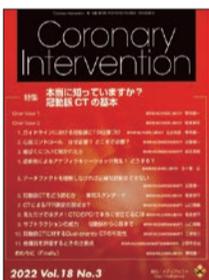
ない決断。凡そ10年間のソルボンヌ大学パリ・シテ大学を中心とする修士課程と博士課程を修了して博士号授与として結実。「科学の形而上学化」の実践と思索を通して「わたしの真理」に至る。更に「絶対的真理」へと飛翔。生の意味や多くの人のもとめる幸福の問題に辿り着く。

本書のなかで著者は特有の理論、「意識の三層構造」を論じ、その第三層こそが思考に重要として図式化している。それは思想の写像としても興味深く説得力がある。また著者が撮影した写真も数多く掲載され現実感を与えている。

また本書は出版後わずか1か月余りだが、紀伊国屋書店 新刊案内に取り上げられ、要旨、『古くは寺田寅彦、中谷宇吉郎、現代では福岡伸一など、名文家の誉れ高い科学者は少なくないが。著者の静謐で流麗な文章は、読む者の心を捉えて離さない優れた名文家である』と高評価を受けている。

日本には哲学は存在しないとまでいわれるなか、2013年著者が代表するサイファイ研究所での知識挑戦を開始、本書とともに日本思想史に金字塔を打ち建てると見てよいだろう。

(48期 深津 亮)



### 「本当に知っていますか？ 冠動脈CTの基本」

はなおか けいいち いがらし ただし  
華岡 慶一(60期)、五十嵐 正(77期)、  
菅家 鉄平(80期)  
株式会社メディアルファ ¥3,190

今回ご紹介する本書は冠動脈インターベンションの専門誌である「Coronary Intervention」(メディアルファ発行)の最新号に載った特集記事、「本当に知っていますか？冠動脈CTの基本」である。札幌市内の医療法人春林会華岡青洲記念病院の理事長である華岡慶一氏(循環器専門医、60期)と院長松居喜郎氏(北大循環器外科学名誉教授、56期)のお二人は循環器領域において国内外に輝かしい経歴をお持ちの専門医である。両者の指導の下で勤務する医療スタッフの面々がそれぞれの責任領域での冠動脈CT検査(以下CT)の基

本について詳細な記述を行っている。特に目を引く点としては2台のキヤノン製CT装置、現在は装置が刷新されキヤノンメディカルシステムズが開発したディープラーニングによるPrecise IQ Engineの紹介から始まり、医療スタッフが華岡スタンダードと称される独自の発想に基づく基本スタンスを忠実に守りながら、CTで得た心疾患のリスク評価から診断の確定、侵襲的治療におけるストラテジー構築まで一貫した流れで検査を完了する姿勢である。この病院の基本理念は誠実性、合理性考察、真理の追求、そして調和と共生であり、

その精神は江戸時代後期にお弟子さんを数百人以上教育した医聖華岡青洲に繋がる場所である。すでにCTは冠動脈疾患専門病院においては病変の診断から治療に至るまで必須の非侵襲的検査として確固たる地位を占めている。我々循環器科を標榜している個人開業医にとって、CTで得られた最新情報を信頼のおける病院施設と共有することは冠動脈疾患患者の早期発見、早期治療に役立つのみならず、病診連携への重要な足がかりとなる。

(55期 水谷匡宏)



### 「エッセンシャル脊椎・脊髄の画像診断」

かみしま たもつ  
神島 保(70期)他編著  
MEDSI ¥10,450

コロナ禍ではオンラインでの会議が増え、「雑談」の減少から北海道のような「大きな離島」では首都圏を含めた本州との情報格差が進んでしまうことを危惧している。その一方で、出版市場は3年連続で売り上げ増、電子出版と紙の書籍ともに好調と報じられている。このタイミングで、本書が出版された。

脊椎・脊髄の診断や治療には領域横断的な側面があるが、寺江 聡先生(61期)を含む神経放射線領域と神島 保先生(70期)を含む骨軟部放射線領

域のエキスパートが協力し、脊椎・脊髄疾患の画像診断を扱う実用的なテキストを目指して上梓したのがこの教科書である。

本書は、日常診療で遭遇することの多い疾患を中心に厳選、当該領域の画像診断のエッセンスを凝縮した実践テキストである。現場のニーズを踏まえ、MRI診断のみならず、単純X線写真、CT診断の解説も加えられている。箇条書きスタイルで読みやすく、希少疾患を含む教育的症例の良質な画像が多数盛

り込まれ、多色刷で分かりやすく編集されている。

放射線科医のみならず整形外科、(脳)神経内科、脳神経外科等の脊椎・脊髄疾患診療に関わる諸先生方の座右の書としても役立つ名著であり、是非、手に取って読み、最新の知識を得て、思う存分「雑談」できる日に備えていただきたい。

(71期 工藤與亮)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2022年10月20日(木)までにお送りください。

【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。

【書評執筆】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。

【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp

【掲 載 号】 新聞174号(1月号、1月上旬頃発送開始予定)

# 北海道医学会からお知らせ

## ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

## ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行 (5月、11月：令和3年は第96巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催 (10月下旬：昭和42年から実施)

・若手研究者への「研究奨励賞」の授与 (年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

## ○会員の状況 (令和3年12月31日現在)

- ・一般会員 579名 (年会費 4,000円)
- ・学生会員 7名 (年会費 1,000円)
- ・特別会員73団体 (年会費 25,000円)
- ・名誉会員 158名

## ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

## ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局

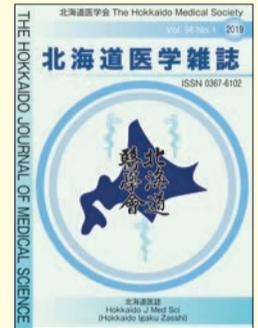
電話 : 011-706-5007

E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

## ○会費納入について

北海道医学会では、従来の①郵便払込、②銀行振込に加え、③クレジットカードでの会費納入が可能になりました。ご利用方法については、本会ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hokkaido-med-society.org/>



### 過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会員名簿の発送について

2014年度より、過年度分未納会費が2年分(1万円)を超える会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

過年度分未納会費が2年を超える会員で、本年度の同窓会員名簿の送付を希望される方は、**2022年9月30日までに未納会費の納付をお願いいたします。**期日以降に納付されましても、印刷部数確定のため、今年度の名簿をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

●ご注意ください

【令和4年度同窓会員名簿について】  
過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は**2022年9月30日**としております。たとえ年度内(2023年3月31日まで)に未納額を納付いたしましても、当年度発行の会員名簿をお届けすることはできません。

【過年度分の名簿および会誌について】  
後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

### 【令和4年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い

本年度は、名簿発刊の年に当たっており、11月下旬の発送を予定しております。登録情報に変更等がございましたら、**今回の同窓会新聞に同封いたしました最新の「会員登録情報変更届」、またはE-mailやFAXなどのお電話以外で、10月5日(水)までに事務局までお知らせください。**ご連絡のない方につきましては、訂正・変更はないものとし、従来からの登録データを掲載させていただきます。

住所変更等には可能な限り対応いたしておりますが、**期日以降にご連絡いただきました場合、名簿の印刷には間に合わない可能性がございます。**申し訳ございませんが、その旨ご了承ください。

※ 名簿の校正は、各期評議員(予備評議員)あるいは各期の担当者が、自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる偽の問合せには、**ご注意ください**ますよう、お願い申し上げます。

### 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されておりますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便(レターパック等)により同窓会事務局へ送ってください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**

○送付先  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部百年記念館  
北海道大学医学部同窓会事務局

### ご逝去者

新聞172号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2020年10月13日	今 秀一	専5	5月31日	小 熊 或 子	45
2021年5月9日	昔 農 輝 夫	26	6月1日	伊 藤 進 造	25
12月11日	那 須 泰	専5	6月4日	鈴 木 昭	30
2022年1月24日	松 山 隆 治	31	6月7日	今 村 正 克	38
3月15日	藤 澤 正 昭	37	6月14日	田 川 義 継	47
3月17日	山 崎 康 夫	50	7月10日	田 下 昌 明	40
3月19日	高 木 浩	32	7月26日	福 士 盛 大	50
4月22日	柴 田 淳 一	26	7月28日	松 田 英 彦	37
5月1日	遠 藤 煥	29	7月31日	木 村 圭 一	71
5月14日	三 神 大 世	52	8月4日	清 水 哲 也	28
5月15日	原 俊 二	24	8月5日	中 野 健 児	専7新
5月21日	関 敏 雄	50	8月10日	近 藤 浩	36
5月25日	小 野 百 合	55	8月17日	西 池 彰	35
			8月18日	栗 林 弘	45
			8月18日	三 宅 哲	48

※前号で酒巻靖弘先生の卒業期、38期が印刷されておりました。お詫びし訂正いたします。

### 一面の写真説明

「大きなありがとうを込めて」  
佐藤 謙太郎(100期 医学科5年)

札幌市厚別区の北海道百年記念塔。昭和45年の完成以来、昭和・平成・令和の北海道を半世紀以上静かに見守ってきた。北海道を発つ時も帰る時も、快速エアポートの車窓にはいつも君の大きな背中があった。解体が迫り、もうじき君はこの世からいなくなるだろう。しかし、今は入れぬ塔内部で鬼ごっこをした小学校の遠足、君との思い出は僕の胸にいつまでも刻まれる。

### 編集後記

本号から編集委員の末席を汚すこととなりました、83期、神経内科学教室の白井慎一です。普段何気なく手に取って目を通していただいていた同窓会新聞ですが、編集会議で紙面の構成に目を回していました。諸先輩方、学生会員のみならず、みなさまのお力で記事が集まり、見事な紙面になったと自画自賛しています。折しも新型コロナウイルス感染症流行第7波の最中、幼子を抱える我が家もいつ感染するかハラハラしております。同窓会員の皆様におかれましてもご自愛下さいませよう折りつつ筆を置かせて頂きます。

(83期 白井慎一)

○同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
<https://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

○会員登録情報の変更は、ホームページ内の「会員データ登録・変更フォーム」より、お手続きいただくことが可能です。  
<https://hokudai-med-dousou.com/contact/>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表 (011) 750-2205